科目	単位	時間	履修学年	講師名
看護学概論	1	30	1	

ねらい	看護の定義、主要概念、看護の歴史、特に奈良の看護の歴史について学ぶ。看護は奈良でどのように生まれ広がっていったのか、地域に残る足跡を辿りながら学ぶ。看護者としての基本的責任を果たすため、看護者の在り方に対する倫理を理解する。

回数	授業内容	授業方法
1回目	1. 看護とは	講義
	1)看護の本質	
2回目	2) 看護の定義をもとに看護の役割と機能について考える	講義
3回目	3) ヘンダーソンの理論をもとに看護の機能について考える	講義
4回目	4) GW 発表　5) 看護実践とその保証に必要な条件	講義
5回目	2. 看護の対象の理解	講義
	1) 人間の「こころ」と「からだ」2) 人間の「生活」の理解	
	3. 国民の健康・生活の全体像の把握・健康のとらえ方	
6回目	4. 看護における倫理とは	講義
7回目	1) 倫理原則　2) 患者の権利	講義
	3) 看護者の倫理綱領	
	4) 現代医療における倫理的問題	
8回目	5. 看護の提供者、看護の提供の場	講義
9回目	6. 奈良の歴史にみる看護	講義・演習
10回目	1) テーマごとに調査・グループワーク	講義
11回目	2) 発表する	講義
12回目		講義
13回目	7. 医療安全と医療の質の保証	講義
14回目	8. 看護の理論家による看護の定義	講義
14.5回目 (45分)	9. 国民の生活と健康の理解	講義
15回目 (45分)	終講試験	試験

教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学①　看護学概論　医学書院 看護の基本となるもの　日本看護協会出版会 看護覚え書き　日本看護協会出版会 よくわかる看護者の倫理綱領　照林社
評価方法	筆記試験(1時間【45分間】: 100点)
備考	この授業は看護とは何か、看護者とはどのような役割を担っているのかなど、看護学の入り口です。授業ではグループワークなども取り入れていきますので、自己の考えを述べ、他者の意見を聞くことで、学びを共有していきましょう。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術Ⅰ	1	30	1	

令和5年4月1日

ねらい	・看護技術の持つ意義を理解し、科学的根拠に基づいた技術を追求する姿勢を養う ・看護の共通技術であるコミュニケーション技術とバイタルサインの観察技術を習得する

回数	授業内容	授業方法
1回目	看護技術を学ぶにあたって ・基礎看護学の位置づけ　・看護技術の特徴 ・看護技術の範囲 ・看護技術を適切の行うための要素 ・看護技術の原理原則：安全・安楽・自立・個別性	講義 個人ワーク グループワーク
2回目	コミュニケーション ・コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションの構成要素と成立過程	
3回目	・関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・効果的なコミュニケーションの実際 ・具体的場面でのコミュニケーション行動とその評価 ・コミュニケーションに障害がある対象への対応	
4回目	ヘルスアセスメント ヘルスアセスメントとは・ヘルスアセスメントにおける観察・視点	講義
5回目	健康歴とセルフケア能力のアセスメント	
6回目	全体の概観 ・バイタルサインの観察とアセスメント ・フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診）	講義
7回目	・全身状態・全体印象の把握	
8回目	【第1回目】 バイタルサイン測定（血圧・呼吸・脈拍・体温）と報告の実践	演習（実習室）
9回目	血圧測定の実際（触診法・聴診法）と報告	
10回目	【第2回目】 バイタルサイン測定（血圧・呼吸・脈拍・体温）と報告の実践	演習（実習室）
11回目	血圧測定の実際（触診法・聴診法）と報告	
12回目	【第3回目】 バイタルサイン測定（血圧・呼吸・脈拍・体温）と報告の実践	演習（実習室）
13回目	血圧測定の実際（触診法・聴診法）と報告	
14回目	心理・社会的アセスメント	講義
14.5回目	ヘルスアセスメント　まとめ　（45分）	講義
15回目	終講試験(筆記試験)　（45分）	筆記試験

教科書	①基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学　医学書院 ②根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 ※教科書①は講義・演習ともに、必ず持参すること。
評価方法	筆記試験　100点（別途小テスト・提出物評価も含む）
備考	技術チェックを実施する：バイタルサイン測定　詳細は別途提示する。 ・技術は練習だけすれば身に付くものではありません。何故そうするのか根拠を学び、正しい知識と技術と態度の習得をしていけるように一緒に学習していきましょう。 ・演習時間で技術の習得を目指すために、真剣に取り組むこと。 ・技術チェックを受けて、到達度に達するまで評価を受けること。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術Ⅱ (環境・体位)	1	30	1	

ねらい	生理的ニードに対する日常生活援助技術である環境を整える技術と看護実践の基礎となる安楽の確保、安全を守るための共通基本技術を習得する。

回数	授業内容	授業方法
	Ⅰ　環境調整技術　　Ⅱ　活動・休息援助技術	
1回目	1. 療養生活の環境のアセスメントと調整・ベッド周囲の環境整備	講義
2回目	2. 基本的活動の援助 1) 基本的活動の基礎知識 (1) 良い姿勢 (2) ボディメカニクス 3. 体位 (1) 廃用症候群・良肢位 (2) 体位変換・体位保持	講義
3回目	4. ベッド周囲の環境整備 (1) リネン類の取り扱い (2) ベッドメイキング	講義・演習
4回目	5. 病床を整える	講義
5回目	ベッドメーキング・環境整備・リネン交換	講義
6回目	ベッドメーキング・環境整備・リネン交換	演習
7回目	7. リネン交換 体位変換・体位保持	講義
8回目	リネン交換(臥床患者のシーツ交換)	演習
9回目	8. 活動・睡眠・休息の援助	講義
10回目・11回目	1) 歩行・移乗・移送	講義
12回目・13回目	2) 車椅子への移乗・車椅子での移送	講義
14回目	歩行・車椅子移乗・移送の介助	演習
14.5回目	Ⅲ　苦痛の緩和・安楽確保の技術 冷罨法・温罨法	講義
15回目	終講試験	

教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 基礎・臨床　看護技術(医学書院)
評価方法	筆記試験　　100点(45分)
備考	

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術Ⅲ （食事・排泄）	1	30	1	

ねらい	生理的ニードに対する日常生活援助技術である食事・排泄の援助技術を習得する

回数	授業内容	授業方法
1回目 2回目	【食事援助技術】①食事援助の基礎知識 ・食事の意義について ・食べるために必要な機能 ・栄養状態のアセスメントについて ・摂食・嚥下機能のアセスメント	講義 講義
3回目 4回目 5･6回目	【食事援助技術】②経口摂取の援助 ・安全・安楽な食事援助 ・経口摂取の援助方法の実際 　ギャッチアップ30度での食事介助 　視覚障害のある患者への援助	講義 講義 演習
7回目	≪排泄援助技術≫　①排泄援助の基礎知識 ・排泄の意義 ・排泄器官の機能・排泄のメカニズムについて ・排泄のアセスメント	講義
8回目 9回目	≪排泄援助技術≫　②自然排泄の援助 ・自然排尿および自然排便の介助の実際 　床上排泄の援助（便器・尿器を使用した援助） 　床上排泄の援助（おむつによる排泄援助） ・おむつ装着体験から考える排泄援助	講義 演習
10回目	【食事援助技術】③非経口的栄養摂取の援助 ・経管栄養の意義と必要性・方法の実際 ・経管栄養の危険とその観察・援助	講義・演習
11回目 12回目 13・14回目	≪排泄援助技術≫　③自然排便を促す援助、導尿 ・排便を促す援助 　浣腸・摘便 ・一時導尿・持続的導尿の援助とリスク ・導尿の実際 　一時導尿（男性・女性）	講義・演習 講義・ デモストレーション 演習
14.5回目(45分)	まとめ	講義
15回目（45分）	終講試験	試験
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護学技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第3版 決定版　ケアに生かす　検査値ガイド　第2版	
評価方法	筆記試験1時間【45分間】：80点、レポート20点	
備考	食事や排泄は、人にとってどんな意味がある行為なのかを捉え、食事や排泄における看護師の役割を理解する。また、食事・排泄にかかわる人体の構造と機能を理解し、根拠をもって安全に技術を提供することができるよう学ぶことが望まれる。	

科目	単位	時間	履修学年	講師
基礎看護技術Ⅳ(清潔)	1	30	1学年	

ねらい	皮膚と粘膜の保護および清潔保持に関する生理的メカニズムを理解し、対象者が健康な生活を営むために必要な清潔の援助方法を習得する。人間にとっての衣類、衣生活の意義を理解し、安全で質の高い看護技術を習得する	
回数	授業内容	授業方法
1回目	清潔援助の基礎知識 清潔援助の意義：身体的、精神的、文化的な側面から捉える。人間の皮膚･粘膜のメカニズム。個別性に応じた様々な清潔援助が身体に及ぼす影響を学ぶ。 ＊課題:休暇中に体験学習【テーマ】1 日清潔行動を制限された時に感じた身体的･精神的・文化的影響、その後の清潔行動における気づきをレポート提出＊清潔行動の制限は倫理的配慮から強制ではない＊全身清拭の演習時の患者役の服装についてアンケート	講義 看図使用
2回目	衣生活の援助の基礎知識・意義・目的：身体的側面も含め、自身の生活から衣生活の精神的・社会的（文化的）側面を捉える。次回の演習に向けて浴衣の特徴や寝衣交換の方法や留意点について学ぶ ＊寝衣交換の演習の説明	講義 動画
3回目	衣生活の援助の実際【寝衣交換/浴衣】 学生同士で浴衣の着方、たたみ方、留意点を実践し、看護師、患者役となり寝衣交換の援助を行う	演習
4回目	全身清拭の援助の実際 身体を清潔にする方法とその根拠について考える。 全身清拭の意義･目的・方法・留意点 ＊特にプライバシの確保、羞恥心への配慮、声かけ等 ＊次回演習の説明	講義 グループワーク
5～6回	全身清拭と衣生活の援助の実際【全身清拭・寝衣交換】 学生同士で全身清拭と寝衣交換の一連を通した援助を実践し､方法や留意点を学ぶ	演習
7回目	陰部洗浄の援助 陰部洗浄の意義・目的・方法と留意点を学ぶ ＊次回演習の説明	講義 グループワーク
8～9回	陰部洗浄の援助の実際【陰部洗浄】 学生同士で陰部モデルを装着し陰部洗浄の援助を実践する。	演習
10回目	洗髪・手浴・足浴・入浴の援助 洗髪・手浴・足浴の意義・目的・方法と留意点 ＊次回からの演習の説明	講義 動画
11～12回	洗髪の援助の実際【洗髪】 学生同士でケリーパッドを使用した洗髪援助を実践する	演習
13回	足浴の援助の実際 学生同士で足浴の援助を実践し方法、留意点を学ぶ	演習
14回	整容･口腔ケアの援助の実際【整容・口腔ケア】 ケアの意義・目的・方法と留意点 口腔の観察とアセスメント	講義 動画
14.5回	課題レポート提出内容をもとに清潔援助の統括	講義
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅲ（医学書院）	
参考文献		
評価方法	筆記試験（1時間【45分】）90点　課題レポート（10点）	
備考	知識に基づいて演習を行うことで深める授業です。確かな知識と技術と態度が求められます。特に技術では練習を重ねる以外に上達することは難しいです。研修時間等を有効に利用し、研鑽を積んで下さい。	

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術Ⅴ （安全・検査）	1	30	1	

ねらい	診療に伴う援助技術である治療・検査技術、及び呼吸・循環を整える技術を習得する。

回数	授業内容	授業方法
	1. 感染予防の技術	
1回目	1) 手洗い・個人防護用具の取扱い	演習
2回目	2) 感染防止の基礎知識	講義
3回目	3) 標準予防策・感染経路別予防策	講義
4回目	4) 感染予防対策の実際～個人防護用具・針刺し事故防止・	演習
5回目	5) 洗浄・消毒・滅菌・感染性廃棄物・無菌操作	演習
	2. 診療・検査に伴う技術	
6回目	1) 症状生体管理技術・検体検査の基礎知識	講義
	2) 生体情報のモニタリング・検体検査	
7回目	3) 静脈血採血の基礎知識	講義
8回目	4) 静脈血採血の実際・真空管採血・シリンジ採血	演習
9回目		演習
	3. 呼吸・循環を整える技術	
10回目	1) 酸素吸入療法・排痰ケア・ドレナージ	講義
11回目	2) 一次的吸引の実施	演習
12回目	3) 体温管理の技術	演習
13回目	4) 末梢循環促進ケア	講義
14回目		講義
14.5回目		講義
15回目	終講試験	試験

教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　(医学書院) 決定版　ケアに生かす　検査値ガイド
評価方法	筆記試験　80点(45分) 小テスト　20点
備考	演習ではシミュレターを使用した静脈血採血、痰の吸引や酸素ボンベの取扱い、感染予防の手洗い・無菌操作を行います。解剖生理や基礎看護と関連付けて根拠を考え知識・技術・態度を習得しましょう。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術Ⅵ （フィジカルアセスメント）	1	30	1	

ねらい	観察のひとつとしてのフィジカルアセスメントの方法と根拠を理解し、看護につなげられるための技術を学ぶ。

回数	授業内容	授業方法
1回目	全体の概観 ・フィジカルアセスメントに必要な技術（視診・触診・聴診・打診） ・全身状態・全体印象の把握	講義
2～3 回目	系統的フィジカルアセスメント（呼吸器系：呼吸音の聴取）	講義・演習
4回目	系統的フィジカルアセスメント（循環器系：心音の聴取・心電図） 系統的フィジカルアセスメント（消化器系：腹部聴診、触診）	講義
5回目	系統的フィジカルアセスメント実践（循環器系：末梢血管のアセスメント） 系統的フィジカルアセスメント実践（消化器系：腹部聴診、触診）	演習
6 ～ 7 回目	脳神経・筋骨格のフィジカルアセスメントの実践 （MMT、対光反射、瞳孔計など） 頭頸部と感覚器、外皮系のフィジカルアセスメントの実践	講義・演習
8～9 回目	高齢者のフィジカルアセスメントの実施	講義・演習
10～11 回目	小児のフィジカルアセスメントの実施	講義・演習
12～13 回目	母性分野のフィジカルアセスメントの実施	講義・演習
14 回目	症状のアセスメント： ・症状のメカニズムの理解（頭痛、腹痛、胸痛、嘔吐、下痢、下血など） ・症状から考えられる原因や緊急度の判断 ・問診及び観察方法 アセスメントに生かす問診の方法	講義
14.5 回目	症状のアセスメント：問診の実際	演習
15 回目 (45 分)	終講試験	試験

教科書	① 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ（医学書院） ② 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　（医学書院）
評価方法	筆記試験　100 点
備考	技術は練習だけすれば身に付くものではありません。何故そうするのか根拠を学び、正しい知識と技術と態度の習得をしていけるように一緒に学習していきましょう。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
看護過程展開技術	1	30	1	

ねらい	看護を計画的に実践することの必要性とその展開技術を学び記録・報告できる

回数	授業内容	授業形態
1回目	講義の概要と進め方　問題解決思考　　クリティカルシンキング 看護過程の構成要素と一連のプロセス	講義
2回目	看護過程を用いる意義　　看護過程の考え方 情報とは・分析とは　　問題志向とは　　計画とは	講義
3回目	マズローの欲求理論・ヘンダーソン看護理論について	講義
4回目	ヘンダーソン看護理論とゴードンのとの違い ゴードンの機能的健康パターンの11項目について	講義
5回目	ゴードンの機能的健康パターンの11項目について	講義・演習
6回目	ゴードンの機能的健康パターンの11項目について	講義・演習
7回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 情報収集の整理	講義・演習
8回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 アセスメント	講義・演習
9回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 看護診断・　PES方式	講義・演習
10回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 関連図・看護診断	講義・演習
11回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 関連図・看護診断　、まとめ	講義・演習
12回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 看護計画	講義・演習
13回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 堅固計画のロールプレイ　SOAP記入　評価　計画の修正・追加記録	演習
14回目 14.5回目	事例（間質性肺炎）ゴードンの機能的健康パターンの11項目 堅固計画のロールプレイ　SOAP記入　評価　計画の修正・追加記録 まとめ	講義・演習
15回目(45分)	終講試験	試験

教科書	①　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　（医学書院） ②　ゴードンの機能的健康パターンに基づく　看護過程と看護診断（ヌーベルヒロカワ） ③　看護診断ハンドブック（医学書院）
評価方法	筆記試験：50点　・　看護過程：50点
備考	問題解決思考をしっかりと身につけていきましょう。また看護過程の展開の方法や、決まり事、記録の記載方法など、これから始まる臨地実習では重要な視点となります。配布プリントも多くなりますが、しっかり整理をして学習していけるように一緒に頑張りましょう。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
暮らしを支える看護Ⅰ	1	15	1	

ねらい	地域で営まれている暮らしを理解し、互助・共助・公助の概念と多職種連携・協働について理解することができる。

回数	授業内容	
1～3 回目	1．地域に暮らす人々 1）支えあって生きること 2）地域・在宅看護の対象 3）健康と暮らしを支える看護	講義 演習
4回目	2．学校周辺の地域の理解 1）地域（奈良市）の特徴 ・人口構造、地理的特性、多い疾患 ・生活にまつわる課題、どんな健康問題があるのか	演習・フィールドワーク
5回目	3．暮らしと健康を守る法と制度・施策 1）地域にある様々な制度の概要	講義
6～7 回目	4．関係職種について 1）様々な職種の専門性とは 2）多職種連携について 3）様々な場で行われるカンファレンスの意義 4）多様な場での看護活動	講義
7.5 回目（45 分）	試験	試験

教科書	ナーシンググラフィカ　在宅看護論①　地域療養を支えるケア（メディカ出版） ナーシンググラフィカ　在宅看護論②　在宅療養を支える技術（メディカ出版）
評価方法	筆記試験　（1時間【４５分】：100 点）
備考	

科目	単位	時間	履修学年	講師名
成人看護学概論	1	15	1	

ねらい	成人期にある対象の特徴を理解し、成人各期における保健問題の動向と保健対策の概要を知り、健康の保持増進・疾病予防などの看護の役割を理解する。

回数	授業内容	授業方法
1回目 2回目	第1部　成人の生活と健康 ① 成人と生活 ② 生活と健康	講義 GW
3回目	第2部　成人への看護アプローチの基本 ③ 成人への看護アプローチの基本	講義
4回目	第3部　成人の健康レベルや状態に対応した看護 ④ ヘルスプロモーションと看護 ⑤ 健康をおびやかす要因と看護 ⑥ 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 健康の急激な破綻 急性期にある人の看護：危機理論、ストレスコーピング	講義
5回目	第3部　成人の健康レベルや状態に対応した看護 ⑦ 慢性病とともに生きる人を支える看護 病みの軌跡、エンパワーメント、セルフケア・セルフマネジメント ⑧ 障害がある人とリハビリテーション	講義
6回目 7回目	第3部　成人の健康レベルや状態に対応した看護 ⑨ 人生の最後のときを支える看護 ⑩ さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 ⑪ 新たな治療法、先端医療と看護	講義
7.5回目 (45分)	終講試験	筆記試験
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①　成人看護学総論　（医学書院）	
評価方法	筆記試験　(1時間【45分間】：80点)、レポート：20点	
備考	成人期は、人生の約50年と長い期間を指す。経済の中心を担いながら、家庭でも役割を果たす対象に関心を持ち、理解する視点を養う。そして、対象の健康障害の原因と今後の問題を捉え、対象の切れ間なく続く人生に、看護師がどのように関わるのか理解する。	

科目	単位	時間	履修学年	講師名
老年看護学概論	1	15	1	

ねらい	老年期にある対象の特徴を理解し、老年看護の役割を理解する

回数	授業内容	授業方法
1回目	1. 高齢者の理解 ①（P.2～22） 1）老年期にある人の身体的・精神的・社会的特徴 2）身体機能の加齢変化 3）老年期の発達課題	講義
2回目	2. 高齢者の理解 ② 1）高齢者の感覚器・運動器の疑似体験	講義・演習 グループワーク
3回目	3. 超高齢社会の統計的輪郭（P24～36、国民衛生の動向） 1）超高齢社会の現状 2）高齢者と家族 3）高齢者の健康状態 4）高齢者の暮らし	講義
4回目	4. 高齢社会における保健医療福祉の動向（P36～54） 1）保健医療福祉制度の変遷 2）高齢者医療	講義 グループワーク
5回目	5. 高齢社会における権利擁護 ①（P.54～67） 1）高齢者虐待 2）権利擁護のための制度	講義
6回目	6. 高齢者社会における権利擁護 ② 1）高齢者の権利を支えるとは	講義 グループワーク
7回目	7. 老年看護の役割 （P.73～83） 1）老年看護における注目すべき4つの側面 2）老年看護の特徴 3）老年看護に役立つ理論・概念 4）老年看護に携わる者の責務	講義
7.5回目 （45分）	終講試験	試験

テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 国民衛生の動向 （毎年8月に最新のものが出版されます。9月に購入予定です。）
評価方法	筆記試験 （1時間【45分間】：80点）、レポート20点
備考	老年看護に携わるために必要な基礎知識を得る科目です。加齢変化について、身体的・心理的・社会的側面を理解し、生活を整えること、超高齢社会の様相、自立と権利を守るための社会制度について学習します。まず、高齢者に関心をもつことから始め、授業前の予習をしておきましょう。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
小児看護学概論	1	15	1	

令和5年4月1日

ねらい	子どもの成長・発達と、子どもを取り巻く家族・環境について理解する。また、国の政策や子どもの権利・倫理など幅広い視点で小児看護を学ぶ。

回数	授業内容	授業方法
1回目	小児看護の特徴と理念 1)小児看護の目指すところ 2)小児と家族の諸統計 3)小児看護の変遷 4)小児看護の課題	講義
2回目	子どもの成長・発達 1)成長と発達とは　2)成長・発達の進み方 3)成長・発達に影響する因子　4)成長の評価　5)発達の評価	
3回目	子どもの栄養 1)子どもにとっての栄養の意義　2)子どもと食育 3)発達段階別の子どもの栄養の特徴と看護 新生児・乳児期の子ども 1)新生児 ①形態的特徴②身体的特徴③各機能の発達④新生児の養育および看護 2)乳児 ①形態的特徴②身体生理の特徴③感覚機能④運動機能⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能⑦情緒・社会的機能⑧乳児の養育および看護	講義
4回目	幼児期・学童期の子ども 1) 幼児 ①形態的特徴②身体生理の特徴③感覚機能④運動機能⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能⑦情緒・社会的機能⑧幼児の養育および看護 2)学童 ①形態的特徴②身体生理の特徴③感覚・運動機能④知的・情緒機能 ⑤社会的機能⑥不適応行動・症状⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧学童の養育および看護	
5回目	思春期・青年期の子ども ①形態的特徴②身体生理の特徴③知的・情緒（心理）的・社会的機能 ④生活の特徴⑤心理・社会的適応に関する問題⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題⑧反社会的・逸脱行動⑨事故・外傷⑩思春期の看護	
6回目	家族の特徴とアセスメント 1)子どもにとっての家族とは　2)家族アセスメント 子どもと家族を取り巻く社会 1)児童福祉　2)母子保健　3)医療費の支援　4)予防接種　5)学校保健 6)特別支援教育　7)臓器移植 小児看護における倫理	講義 グループワーク
7回目		
7.5回目 (45分)	終講試験	試験
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学①　小児看護学概論　小児看護学総論　（医学書院）	
評価方法	筆記試験（1時間【45分間】：100点（別途小テスト・提出物評価も含む）	